

## マネジメント工学科

---

教 授	石 橋 基 範	・ ・ ・ ・ ・	5 9
ク	酒 井 哲 也	・ ・ ・ ・ ・	5 9
ク	豊 谷 純	・ ・ ・ ・ ・	6 0
ク	水 上 祐 治	・ ・ ・ ・ ・	6 0
ク	三 友 信 夫	・ ・ ・ ・ ・	6 1
ク	村 田 康 一	・ ・ ・ ・ ・	6 1
ク	矢 野 耕 也	・ ・ ・ ・ ・	6 2
ク	吉 田 典 正	・ ・ ・ ・ ・	6 2
准 教 授	飯 沼 守 彦	・ ・ ・ ・ ・	6 3
専 任 講 師	大 前 佑 斗	・ ・ ・ ・ ・	6 3
ク	権 善 喜	・ ・ ・ ・ ・	6 4
ク	堀 尾 志 保	・ ・ ・ ・ ・	6 4
助 教	井 上 大 成	・ ・ ・ ・ ・	6 5
ク	柿 本 陽 平	・ ・ ・ ・ ・	6 5
助 手	齊 藤 光 平	・ ・ ・ ・ ・	6 6

資格	教授	氏名	石橋基範		
<p>人間工学の中でも人間と製品・サービスの関係を最適化するための研究を進め、特に自動車のHMI/UIに注力している。研究領域を①認知（視覚認知，理解性，人間の状態），②操作・行動，③感性・UXに分類し，広く取り組んできた。特に，従来の人間工学としての使いやすさ実現（機能・性能の面）と“私らしさへのフィット”（感性・体験価値の面）の融合アプローチを目指している。</p> <p>①では，AD/ADASのヒューマンファクタという喫緊の研究課題に対して，AD/ADASの負担軽減効果検証手法の構築（産学連携），楽曲の新奇性に着目した覚醒低下軽減手法，自動運転レベル2の市街地導入を想定したディストラクションと運転パフォーマンス，V2Xを想定した注意喚起情報の利用意欲やその個人適合化等の研究を進めた。デジタルコックピットに関連した課題では，サイズと図形複雑性に基づく車載表示シンボルの視認性研究（産学連携）等を進めた。また，科研費（C）の補助金を受けたヒューマンファクタ研究として，点群への直線描画特徴に基づく失敗行動特徴の推定の研究を進めた。②では，誤操作低減を目的とした自動車用シフト方式の評価手法，ゲーミフィケーションを取り入れたUI（歩数計や学習アプリの事例）によるモチベーション向上等について研究を進めた。③では，労働力不足解決のためのDX活用としてコミュニケーションロボットやアバター店員による接客の受容性，作り手から受け手に製品情報を的確に伝達するためのパッケージ要件（菓子の事例）等の研究を進めた。</p>					
1) 荒木，石橋：安全運転支援の注意喚起メッセージが利用意欲と運轉行動に及ぼす影響，第21回日本感性工学会春季大会（日本感性工学会講演論文集），3P02-13（2026）					
2) 井上，石橋，吉田：直線描画タスクにおいて引かれた直線の特徴と模擬右折場面における反応時間とエラーの関係性，日本感性工学会論文誌，24（4），pp.387-397（2025）					
3) T. Tsukada, K. Kasuya, H. Kubota, S. Okada, Y. Kuriyagawa and M. Ishibashi : Subjective Evaluation Items for Driving Fatigue Factors in ACC/LKAS Usage, 8th International Symposium on Future Active Safety Technology towards Zero Traffic Accidents (2025)					
キーワード	人間工学	感性工学	ヒューマン・マシン・インタフェース	自動車	
SDGs17番号	⑨，⑫				

資格	教授	氏名	酒井哲也		
<p>製品の信頼性・品質・特性評価に関する研究について取り組んでいる。</p> <p>1. スポーツ用品の品質と特性評価に関する研究  様々な球技の中で卓球ボールの特性について検討している。2014年に国際卓球連盟の規定が変わりセルロイドからプラスチックへの移行に伴う物性変化を定量的に明らかにし，メーカーごとに“個性”があることを確認し，さらに，反発式硬度計による反発係数の簡易的な測定についても提案した。</p> <p>2. 材料の耐久性評価と非破壊検査  耐久性，耐食性に優れているプラスチック材料は，使用環境（強酸，強アルカリ，紫外線など）によっては劣化し，予期せぬ事故が発生し問題となっている。これらを，効率良く検査し故障を未然に防ぐことが必要である。そこで，超音波装置による非破壊検査，さらには比較的安価で容易に検査できる反発式硬度計を応用した劣化検知技術を構築することを目的として研究を行っている。現在は紫外線による石油由来及び植物由来のプラスチックの劣化について超音波による非破壊検査を行っている。</p> <p>3. 食品調理器具の腐食に及ぼす調味料の影響  近年，健康志向の高まりや食の安全に対する意識の向上により，調理器具や食器などの食品接触材料の安全性が重視されている。一般的な日本料理には様々な調味料が使用されているが，日本食に限らず弱酸であるお酢が使用されており，これらが，調理器具を腐食させる可能性があるため，この安全性について検討している。</p>					
1) 齊藤光平，酒井哲也，三友信夫，Winarto KURNIAWAN, 久保内昌敏，イオン交換機能を有する合成ゼオライトを充填した不飽和ポリエステル樹脂のアルカリ環境における劣化挙動及び機構，材料の科学と工学 61（4）30-35 2024年 8月					
2) 松村泰雅，柄澤秀親，酒井哲也，三友信夫，新井和吉，国際公認卓球ボールの特性の変遷と反発式硬度計による評価，材料の科学と工学 61（2）38-42 2024年 4月					
3)					
キーワード	製品信頼性	防錆防食	非破壊検査	スポーツ用具	
SDGs17番号	⑨，⑫，⑭，⑮				

資格	教授	氏名	豊谷 純
<p>AI・データサイエンスを社会や医療、ビジネスに応用する実践型研究を行っている。まず、インフラ分野では道路設備などの腐食や錆を対象に、画像認識と機械学習を用いて熟練技術者の目視判断を再現する評価手法を開発し、点検の効率化と高度化を実現している。</p> <p>次に医療分野では、心筋生検画像などの医療画像データを用いて心筋症を高精度に診断するモデルの構築に取り組んでいる。特に小規模データに適した特徴空間設計や分類境界の最適化により、臨床現場で活用可能な診断支援AIの実現を目指している。</p> <p>さらにビジネス応用として、パン屋などのリテール分野において、天候や来店客数、過去の販売データを機械学習で分析し、仕込み量を高精度に予測する研究を行っている。これによりSDGsのフードロス問題や経営効率化に貢献している。</p> <p>これらの研究は、AI技術を単なる理論にとどめず、社会インフラ、医療、企業経営といった現実課題に適用する点に特徴があり、産学連携を通じた社会実装を重視している。</p>			
1) 矢野耕也, 行木靖人, 豊谷 純, 大前佑斗, 谷平春人, 伊藤正人, 高橋大樹, 深層学習を応用した道路設備の腐食損傷検出方法の検討—CNNとMT法の利用—, 品質工学 33 (4), pp.24-32 (2025.10)			
2) Masaya Mori, Yuto Omae, Yutaka Koyama, Kazuyuki Hara, Jun Toyotani, Yasuo Okumura, Hiroyuki Hao, Cardiomyopathy diagnosis model from endomyocardial biopsy specimens : Appropriate feature space and class boundary in small sample size data, AIMS Bioengineering 12 (2) pp.283-313 (2025.6)			
3) 森 雅也, 大前 佑斗, 豊谷 純, リテールペーカリーにおける一般化状態空間モデルを用いた仕込み量の予測と分析, 日本情報ディレクター学会誌, 23 (1), pp.94-103, (2025.3)			
キーワード	AI	ビジネス	医療AI SDGs
SDGs17番号	⑨, ⑫		

資格	教授	氏名	水上 祐治
<p>日本の高等教育の組織形態とIR活動の現状をマクロ的視点で把握する手法として、個人内多様性に焦点を当てイノベーション創出の戦略を見える化する手法がある。経営学の分野では、イノベーションを創出する人材として、個人内多様性を持つことが着目されている。イノベーションは、既存の複数の分野の知が交わり、新たな知を生み出すことをいう。個人内多様性がある人材は、異なる複数の分野を持ちそれら分野を掛け合わせることができる人材である。</p> <p>研究者の個人内多様性を見える化する指標としてMM-Index、特異値分解と非負値因子分解によるクラスターの類似点比較を行い、人工知能分野、IoT分野、Bigdata分野の研究において、イノベーション的発展がどのように進んでいるのかについて、国別にその違いを示した。分析の結果、その類似性に地域性があること、地域により研究の方向性が異なっていることを示すことが出来た。</p> <p>今後は、これらフレームワークをIR分析の指標の一つとして広める活動を継続したい。</p>			
1) Yuji MIZUKAMI, "Knowledge Creation - Creating Value in the Age of VUCA : Leveraging Gaps in Time, Space, and Mode", International Research Session at AAOS Annual Conference, Aoyamagakuin University, 2025, Tokyo, Japan, 2025年 9月20日			
2) Shiho HORIO, Hayato MORISHITA and Yuji MIZUKAMI, "An examination of drugstore opening strategies and their effects from a dominant strategic perspective : based on a questionnaire survey of one metropolitan prefecture and six prefectures in Japan", International Journal of Japan Academic Society of Hospitality Management, Vol.11, No.1, pp. 13-20, 2025年 3月31日			
3) Shiho HORIO, Hayato MORISHITA and Yuji MIZUKAMI, "Factors Promoting Actions in Supervisor-Subordinate Relationships Based on Sense-Making Theory : Emotional Analysis and Convincing Mechanisms Based on a National Questionnaire Survey in Japan", International Journal of Japan Academic Society of Hospitality Management, Vol.11, No.1, pp. 21-27, 2025年 3月31日			
キーワード	Institutional Research	Innovation	Bibliographic analysis 個人内多様性
SDGs17番号	④, ⑧, ⑨		

資格	教授	氏名	三友 信夫		
<p>プラントを代表とする大規模システムにおいては、安全かつ経済的な運転が要求される。そのための手法として、リスク評価手法が注目されている。その代表的な手法として原子力分野で用いられている確率論的リスク評価手法がある。このリスク評価に関連した研究として、対象システムの機器等の損傷や保全に人工知能を用いた材料の損傷機構の推定に関する研究を行っている。具体的には、非金属材料を対象とし、機械学習の一種である決定木分析を用いた。機械学習に必要な機械学習データとしては、非金属材料劣化事例集、樹脂ライニング皮膜の劣化診断指針等を使用した。資料に掲載されたデータに対して、データクレンジングを行った後、分析に用いた。損傷機構を判定・評価するために決定木分析を行った結果、事例数が十分に有る損傷機構については、判断するための条件の抽出や、起こり得る損傷の予測等が可能になると考えられた。また過学習に関する検討も行った。さらにランダムフォレスト手法により、損傷に与える影響の大きい要因の抽出も行った。またAIに関連した研究として、ACMセンサーから得られる大量のデータをAIにより判断する研究も行った。大規模システムの保全については、機器の劣化に着目し、再生可能エネルギーとして注目されている洋上風力発電を対象として、プロペラ部に発生すると考えられるレインエロージョンによる強度の変化について検討もしている。プロペラに用いられているFRPおよびFRPを環境影響から保護するための塗膜について検討を行い、損傷の発生を確認、また損傷機構についても提案を行った。</p>					
1) 郭 嘉誠, 三友 信夫, 安全文化の視点に基づく組織事故解析手法に関する研究, 化学工学会 第91年会予稿集, PD391, 2026年3月18日					
2) 清水陸, 三友信夫, 風力発電へのRBM (Risk Based Maintenance) の導入に関する研究, 第47回 風力エネルギー利用シンポジウム予稿集, A1-05, 2025年11月25日					
3) Nobuo Mitomo, Taisei Inoue, Hiroyasu Matsuda and Tadashi Shinohara, Study on ACM Sensor Data Analysis by AI, 材料と環境, 74 (10) 193-197, 2025年10月10日					
キーワード	確率論的リスク評価 安全工学 人間信頼性 材料科学				
SDGs17番号	⑦, ⑩				

資格	教授	氏名	村田 康一		
<p>ひとりひとりの思う価値を大切に、未来を描き、歩む日々の姿を応援する研究をしています。</p> <p>1. 津田沼見える化塾          コロナの先を見据えて2021年からスタートした研究アウトリーチ活動。千葉に関わる社会人を中心とした勉強会で、毎年、秋から冬にかけてオンラインおよび対面にて実施しています。オリジナルの見える化理論「だれだれななど」を中心に哲学や技術などの知にふれながら、参加者の日常や未来について交流する地域にある大学起点のサードプレイスづくりをしています。</p> <p>2. ラジオを起点とした地域交流          古くて新しい声だけの表現媒体ラジオを用いて、日常を楽しく豊かにするための活動。八千代市コミュニティーFMふくろうFMでのむららばRADIOの企画・運営、そのノウハウを活かした地域イベントでのラジオブース出展、またふくろうFMのボランティアとして、さまざまなイベントにおいて地域の皆様と交流しています。</p> <p>3. アジア・太平洋地域における日本流KAIZENの普及と新技術開発          KAIZEN (改善) は世界が知る日本のマネジメント技術。その更なる普及をアジア・太平洋地域において実践しています。現地のニーズにあわせながら、伝統文化「かるた」など応用したカードゲーム「価値かるた」など、新たなアプローチ・方法の開発にも挑戦しています。</p>					
1) 洪 翔文, 村田康一, 製造業における新任者教育訓練の効率化に関する研究: 文献レビューと展望, 公益社団法人日本経営工学会2025年秋季大会予稿集, pp. 514-515, キョクシアアイーナ, 盛岡市, 岩手, 2025年10月18-19日.					
2) 生産マネジメント研究会 (著), 村田康一 (監修), 図解即戦力生産管理のしくみと改善がこれ1冊でしっかりわかる本, 技術論評社, 2025年7月3日, ISBN: 978-4-297-14986-4.					
3) 大出菜々美, 村田康一, 新規企画立ち上げプロセスの記録に関する研究: 大学生向けインターンシップを例として, 公益社団法人日本経営工学会2024年秋季大会予稿集, pp. 160-161, くにびきメッセ, 松江市, 島根, 2024年10月26-27日.					
キーワード	日常づくり 未来づくり 価値づくり ワクワクづくり				
SDGs17番号	⑤, ⑩, ⑬				

資格	教授	氏名	矢野 耕也		
<p>品質の検査、製造・生産工程のパターンによるモニタリングをターゲットとし、品質工学の中の多変量データの分析法であるMaharanobis-Taguchi (MT) システムにone classモデル等の機械学習やアンサンブル学習を適用し、パターン認識全般に応用させる方法を検討している。</p> <p>まず研究成果1)、3)は医薬品の成分検査において、含量を成分パターンとして検出する方法であり、1)では分割合成法と呼ばれるパターン行列を多重分割する手法を取り入れたところ、類似処方への識別性が大きく向上したことが確認された。また3)では、基準データベースに許容差を適用して頑健性を持たせ、ばらつきの影響による誤判別の低下に取り組んだ。製品には制御不能なばらつきが存在するが、基準に許容差を持たせることで、製品の誤判定の低下を達成した。</p> <p>研究成果2)はいわゆる画像のパターン認識の応用で、高速道路の設備であるトンネル内照明灯具保持部の劣化の判定を目的とし、照明灯具の画像のみを用いてResNetという深層学習を行い、出力である512次元データに対してMTシステムを適用して照明灯具保持部の損傷の程度をマハラノビスの距離という1つの尺度で、問題なし～要交換の4ランクの識別を達成した。ただし若干の誤判別が見られることと、結果の再現性の観点からさらなる検討が必要と判断し、今後は背景や照明ばらつきといったノイズの削除等を実施し、誤判別の低下に取り組むものとする。</p>					
1)矢野耕也, 森芳和, 及川直毅, 識別困難なNIR波形データに対する分割合成法の適用, 品質工学, 34巻1号, pp.28-35 (2026)					
2)矢野耕也, 行木靖人, 豊谷純, 大前佑斗, 谷平春人, 伊藤正人, 高橋大樹, 深層学習を応用した道路設備の腐食損傷検出方法の検討 - CNNとMT法の利用 -, 品質工学, 33巻4号, pp.24-32 (2025)					
3)森芳和, 及川直毅, 矢野耕也, 波形データを用いたMT法による製品同一性管理と単位空間の作成, 品質工学, 32巻4号, pp.31-39 (2024)					
キーワード	品質工学	品質検査	多変量解析	パターン認識	
SDGs17番号	⑨, ⑫				

資格	教授	氏名	吉田 典正		
<p>科学研究費補助金基盤研究 (C)「全体的な曲率変化を考慮した美的曲線・曲面の性質の解明と新デザイン手法構築」を2024年度から3年間の予定で頂いており、研究協力者の元東京農工大学の斎藤隆文教授とともに研究を行っている。従来提案されていた平面曲線に対する曲率単調領域 (曲率変化が単調となる制御点の領域) をGPUで可視化する手法を空間曲線に拡張し、曲率単調領域を、制御点を含む平面において2次元で可視化する手法と、3次元の領域として可視化する手法<sup>1)</sup>を考案した。また、曲率が弧長に対して線形に変化する性質を持つEuler spiralを近似するEuler Bézier/B-spline spiralでは、Yangらによる従来手法ではEuler polygonの生成に収束計算が必要であったが、収束計算を用いずにEuler polygonが生成できることを示し、従来提案されていた手法よりも (状況によっては100倍以上) 高速にEuler Bézier/B-spline spiralを生成する手法を提案した<sup>3)</sup>。</p> <p>助手の井上大成先生との共同研究では、独自に考案した「直線描画タスク」を用いて、自動車の右折時を模擬したタスクにより直線の引き方と右折時の反応時間の関係性を調べる研究<sup>2)</sup>や、様々なジャンルの音楽を聴く頻度と様々なジャンルのゲームを行う頻度との関係性を調べる研究などを行っている。学生との研究では、学生との対話を通して情報可視化や情報技術を利用し、経営の問題に応用するなどの新たな試みを行う研究も行っている。</p>					
1)Norimasa Yoshida, Takafumi Saito, Visualization of Curvature Monotonicity Regions of 3D Bézier Curves in 2D and 3D, Compute-Aided Design and Applications, 23 (1), 41-55, Jan. 2026,					
2)井上大成, 石橋基範, 吉田典正, 直線描画タスクにおいて引かれた直線の特徴と模擬右折場面における反応時間とエラーの関係性, 日本感性工学会論文誌, 24 巻 4 号 p. 387-397, 2025.					
3)佐々木楽, 井上大成, 吉田典正, 斎藤隆文, Euler Bézier spiral対話的制御の一手法, 2025年度精密工学会秋季大会学術講演会, Sep. 19, 2025.					
キーワード	情報可視化	設計工学	感性工学		
SDGs17番号	⑨				

資格	准教授	氏名	飯沼守彦
<p>1. イノベーションを可能にする組織のモデル化とシミュレーション</p> <p>組織が生存・発展するための重要な活動であるイノベーションを、常に新たな知識を創造し環境適応していくことと捉え、ナレッジマネジメントの観点からモデル化する。イノベーションを起こす一つの条件として組織外の知識を有効に活用することが指摘されている。本研究では、外部知識を組織内で吸収・普及させることを考慮に入れたナレッジマネジメントのモデルを構築し、エージェントベースシミュレーションによって、イノベーションを効果的に行うための組織的条件を検討する。</p> <p>2. 質的研究と量的研究を組み合わせたリサーチメソッドの探求</p> <p>リサーチメソッドは、研究対象の存在についてどう考えるか（存在論）や、研究によって得られる知識の基盤をどこに置くか（認識論）によって、大きく量的な方法と質的な方法に分けられる。これまで組織研究でも、これら2つが主流を占めていた。しかしながら、複雑な組織現象のメカニズムを解明するためには、両者を適宜組み合わせたいハイブリッドな方法が必要であると考えている。本研究では、このハイブリッドな方法を根拠づける存在論、認識論、方法論を探求することを目指している。さらには、より深く組織現象のメカニズムを探求するために、批判的実在論をベースにした研究方法論の開発も目指す。</p>			
1) 飯沼守彦, 量的方法と質的方法の融和的關係性に関する考え方, (飯沼, 柴, 田名部, 松下「ISリサーチメソッド研究部会」), 経営情報学会誌, 33 (4), 226-227, 2025年3月			
2)			
3)			
キーワード	経営学	経営組織	社会システム工学
SDGs17番号	⑨		

資格	専任講師	氏名	大前佑斗
<p>現代社会の基盤技術である機械学習の信頼性向上と効率化を目指し、当研究室では以下の二つの研究を推進している。第一に、深層学習における予測性能の根拠を数学的に解明する研究である。深層学習は広範な分野で社会実装が進む一方、その知見の多くは経験則に留まり、特定の環境外での再現性や信頼性の担保が課題であった。本研究では、損失平面をテイラー展開に基づき解析することで、学習の成否を決定付ける条件を定理として記述し、厳密な証明を与えた。これにより、統計的な傾向に依存しない強固な理論的基盤の構築を実現している。第二に、創薬や新材料開発等の高コストな実験を伴う分野で活用される「サロゲート最適化」の研究である。従来、未知の領域を調べる「探索」と有望な領域を深掘りする「活用」の調整は、不確実性を定量化する手法が未確立であったため、経験的な判断に依存せざるを得なかった。本研究では、探索空間全体の不確実性を推定分散の積分値と定義し、その閉形式表現を導出することに成功した。これにより、理論的根拠に基づいた効率的な最適解の探索が可能となる。以上の通り、当研究室では機械学習をブラックボックスからホワイトボックスへと昇華させ、学術的・社会的に意義のある信頼性の高い技術へと発展させることを目的としている。</p>			
1) Y. Omae et al., EVI-GPBO: Estimated Variance Integration-Based Gaussian Process Bayesian Optimization, IEEE Access, vol.13, pp.26208-26224, 2025.			
2) Y. Omae et al., Multi-Rules Mining Algorithm for Combinatorially Exploded Decision Trees With Modified Aitchison-Aitken Function-Based Bayesian Optimization, IEEE Open Journal of the Computer Society, vol.5, pp.215-226, 2024.			
3)			
キーワード	機械学習	連続最適化	統計的学習理論
SDGs17番号	⑨		

資格	専任講師	氏名	権善喜
<p>1. 消費者の意思決定に影響を与える要因として消費者の「感情」に注目しながら、その背後に潜在するさまざまな要因の影響を分析している。具体的には、①消費者の感情を呼び起こすさまざまな要因（口コミやランキング、商品ラベル、ブランド、メニュー表示、時間圧力など）、②それらによって呼び起こされた感情が消費者の意思決定に与える影響という、2つの側面から検討し、これらの影響を定量的に把握するための分析枠組みと分析モデルを提案していくことを試みている。</p> <p>2. 「殻」（優れた製品やサービス、営業力、得意先など、組織を成功に導いた強み）に守られた組織では、そのメンバーが「殻」という過去の成功（栄光）にしがみつ়くことで自身の成長を止めてしまう「ジリ貧」の状態に陥ってしまうことがある。このような「殻」に守られた組織におけるメンバーの心理や行動を記述するための新たなフレームワークを提案している。</p>			
1) 権善喜, 山下洋史：組織におけるメンバーの適温化行動に関する研究, 日本経営システム学会誌, Vol.41, No.3, pp.173-178, 2025			
2) 権善喜, 山下洋史：組織の「殻」とメンバーの「不活性化」, 第73回日本経営システム学会全国研究発表大会講演論文集, pp.52-55, 2024			
3) Sunhee Kwon, Quantitative Analysis of Nostalgic Feeling in the Menu Selection Behavior of Consumers, 2nd GCC International Conference on Industrial Engineering and Operations Management, Muscat, Oman, 2024			
キーワード	経営学 感情喚起 組織の硬直化		
SDGs17番号	⑧, ⑫		

資格	専任講師	氏名	堀尾志保
<p>人的資源管理, 組織行動分野を主たる研究領域としている。とりわけ, 企業組織におけるリーダーシップやチームの現象, 上司一部下関係に関心があり, 産学連携による研究等を行っている。これまで, 心的特性の測定に関する研究, 高業績人材の特徴に関する研究, 管理職の職務経験と能力獲得の関連に関する研究などに取り組んできたが, 近年は, 集団レベルで生起するシェアド・リーダーシップ (shared leadership) の発生メカニズムに焦点を当て, メンバー間の相互作用や関係性のダイナミクスを通じたリーダーシップ生成過程の解明を進めている。</p>			
1) Shiho Horio, Hayato Morishita, Yuji Mizukami, "An examination of drugstore opening strategies and their effects from a dominant strategic perspective : based on a questionnaire survey of one metropolitan prefecture and six prefectures in Japan", International Journal of Japan Academic Society of Hospitality Management 11 (1) 13-20, 2025.			
2) Shiho Horio, Hayato Morishita, Yuji Mizukami, "Factors Promoting Actions in Supervisor-Subordinate Relationships Based on Sense-Making Theory : Emotional Analysis and Convincing Mechanisms Based on a National Questionnaire Survey in Japan", International Journal of Japan Academic Society of Hospitality Management 11 (1) 21-27 2025.			
3) 堀尾志保, 中原淳, リーダーシップ・シフト : 全員活躍チームをつくるシェアド・リーダーシップ, 日本能率協会マネジメントセンター 2024年6月			
キーワード	経営組織 組織行動 人的資源管理 集団・リーダーシップ		
SDGs17番号	③, ④, ⑧		

資格	助教	氏名	井上大成
<p>情報技術を活用して人の特性を推定する研究として、主に以下の2つの研究を中心に取り組んでいる。</p> <p>1. タブレットを用いた簡易タスクによる認知特性の推定に関する研究</p> <p>認知特性を簡便に推定できることは、日常的に運転するドライバの事故防止や教育に繋げることができる。タブレットで簡易に実行可能な、点群に基づき線を引くタスクを用いて認知特性を推定する研究を行っている。タスクによって得た引かれた線の特徴から、日常的な注意力との関係性や反応時間との関係性を明らかにし、これらの成果について感性工学会への論文投稿を行った。<sup>1)</sup></p> <p>2. 人の特性とゲームジャンルの嗜好度との関係性に関する研究</p> <p>コンテンツ（音楽や映画、ゲームなど）を推薦する際、性格特性を考慮するとユーザの満足度が上がることが報告されている。また、性格特性とゲームジャンルの好みとの間に関係性があることが報告されているが、日本での報告は非常に少ない。日本におけるゲームジャンルの好みと性格特性の関係性を明らかにし、感性工学会へ論文投稿を行った。<sup>3)</sup></p> <p>その他、学生との研究で生成系AIと感性工学に関する研究なども行っている。</p>			
1)井上大成, 石橋基範, 吉田典正, 直線描画タスクにおいて引かれた直線の特徴と模擬右折場面における反応時間とエラーの関係性, 日本感性工学会論文誌, 24・4, (2025.12.26)			
2)井上大成, 鳥居塚崇, 吉田典正, 音楽およびゲームの利用頻度に基づく因子間関係性, 第27回日本感性工学会大会, (2025.9.19)			
3)井上大成, 吉田典正, 鳥居塚崇, 若者のゲームの嗜好性に関する考察 -性格の主要5因子との関連に着目して-, 日本感性工学会論文誌, 23・3, (2024.8.31)			
キーワード	ソフトウェア工学 ヒューマンコンピュータインタラクション 人間工学 感性情報学		
SDGs17番号	③, ④, ⑧		

資格	助教	氏名	柿本陽平
<p>テーマ1:</p> <p>最適化モデルにより社会のさまざまな課題を解決する研究の一環として、社会や交通に関するデータを分析し、人や車両の行動特性を把握するとともに、複雑な計画問題を効率的に解くための研究を行っている。具体的には、移動履歴データに含まれる特徴を整理し、利用者群の違いを分類、把握する手法を検討している。また、あらかじめ得られたシミュレーション結果や計算結果を基に機械学習モデルを構築し、それを最適化問題に組み込むことで、精度をできるだけ保ちながら計算負荷を軽減する方法を研究している。これにより、社会の動向把握や、限られた時間の中での迅速な意思決定を支援する枠組みの構築を目指している。</p> <p>テーマ2:</p> <p>道路ネットワークを対象として、施設配置や交通計画をより適切に行うための研究を進めている。現実の道路網をそのまま扱くと、問題規模が大きくなり、計算時間や必要な計算資源が増大するため、道路ネットワークの構造をできるだけ保ちながら簡潔に表現し、解の質を損なわずに計算しやすくする方法が重要となる。そこで、道路ネットワークの要約や整理の仕方が施設配置の判断にどのような影響を与えるかを分析し、計算効率と最適性を両立できる条件の解明を目指している。さらに、こうした知見を通じて、交通、物流、公共サービスの計画立案に役立つ基盤技術の構築を進めている。</p>			
1)Yohei Kakimoto, "Extended p-Median Problem with Embedded Linear SVR", Proceedings of the International Conference on Innovative Computing, Information and Control, ICICIC2025-SS34-06, August, 2025.			
2)Yohei Kakimoto, Impact of road network summarization on facility location decisions: A case study of the flow-capturing location-allocation problem, Journal of Physics: Conference Series, vol.3027, no.1, 012078, 2025.			
3)Yohei Kakimoto, Yuto Omae, Hiroataka Takahashi, Analysis of sparse trajectory features based on mobile device location for user group classification using Gaussian mixture model, Applied Sciences, vol.15, no.2, 982, 2025.			
キーワード	数理最適化 施設配置 交通計画 機械学習		
SDGs17番号	⑨, ⑩		

資格	助手	氏名	齊藤 光平		
<p>プラスチック材料の耐食性制御，及び経済性評価に関して，以下の研究に取り組んでいる。</p> <p>1. イオン交換体充填によるプラスチック材料の耐食性の制御に関する研究</p> <p>プラスチック材料は，コストの低減や機能性付与のため，充填物を用いることが一般的であるが，耐食性に関しては，界面が形成されることで薬液の浸入を促進させる，負の側面を有している。特に浸入した薬液の，酸性やアルカリ性によっては，プラスチック材料の劣化が促進される。そこで，イオン交換機能を有する合成ゼオライトを充填材として採用し，浸入する薬液が有しているイオンとの反応による，材料の耐食性を制御する効果について，検討を行っている。材料の耐食性を低下させる場合には，薬液中のイオンと反応することで劣化が促進するような材料とすることで，リサイクルあるいは環境の負荷の低減を目指した，材料開発を進めている。</p> <p>2. プラスチック材料の寿命予測と経済性評価</p> <p>プラスチック材料を実用化するうえで，耐久性や耐食性だけではなく，その実用化のコストと材料の寿命の検討は必須である。そこで，薬液での浸せき後における，材料の耐食性の傾向から，材料の劣化の温度依存性，及び濃度依存性を求め，プラスチック材料の寿命を予測する式の導出を行っている。また，材料の寿命予測の結果から，材料コスト及び施工コストを積算することで，経済性の評価を行っている。</p>					
1)佐藤，齊藤，酒井：アルカリ環境における合成ゼオライト充填PLAの劣化挙動，JCCM-17，3B-08，2026年3月。					
2)高井，齊藤，酒井，W. Kurniawan，久保内：耐アルカリ性向上を目的としたゼオライト充填光硬化樹脂の作製とその評価，JCCM-17，3B-07，2026年3月。					
3)齊藤，酒井，三友，W. Kurniawan，久保内：高耐食性を目指したゼオライト充填プラスチック材料の寿命と経済性評価，第45回防錆防食技術発表大会講演予稿集，81-84，2025年7月。					
キーワード	プラスチックの耐食制御      寿命予測      経済性評価      防錆防食				
SDGs17番号	⑫，⑭，⑮				